

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：伊豆半島ジオパーク推進協議会

今後地域の将来像を実現するために必要と考えられる事業を3つ書いてください。

1 事業名称：パートナーシップと連携の強化			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>サステイナブル・ツーリズムへの理解向上と普及のためには、まずは地域内の担い手との連携が必要である。すでにジオツアーやエコツアーを実施している事業者だけでなく、既存の観光業者等に対してもジオパークや持続可能な観光の趣旨を知ってもらう。そのうえで、個々の事業者の力や活動が集結されるよう連携を強める。</p> <p>持続可能な観光に寄与するパートナーシップを、アクティビティツアー事業者と締結し共に活動/PRすることで環境に対して低負荷かつ経済的に成立する観光へ転換する契機としたい。また、関連する業種（宿泊や運送、農林水産業、製造業）へもパートナーシップを広げていき、地産地消の促進や食品ロスの低減、エネルギーの効率化なども目指していきたい。</p>	①なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>15市町にまたがる活動であるため、ステークホルダーは多数におよぶ。そこで、サステナブル・ツーリズムを合目的的に実現していくためのパートナーを特定して、さまざまに連携・協働していく必要がある。この際、重要な役割を担うパートナーを見逃してしまったり、目的にそぐわない事業者とパートナーになってしまう恐れがある。</p> <p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p>	
	②どの地域資源を活用するか		<p>サステイナブル・ツーリズムへの理解向上と普及のためには、地域内の担い手との連携が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆半島ジオパークのジオサイト ・伊豆半島エコツーリズム推進全体構想（案）の「自然観光資源」「その他の観光資源」
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）		<p>パートナーシップ協定と協定に基づく自然観光資源利用ルールの共有（ルールは伊豆半島エコツーリズム推進全体構想（案）のルールを適用）</p>
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）		<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆半島ジオパーク推進協議会 ・観光事業者
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか		<p>個別に活動していた事業者が連携して活動することによる活動が拡大するとともに可視化される。事業者間での交流促進により「域内の北部（都市部）と中南部（観光地）の観光/学習交流が増加する（地域内の人と金の循環を高める）」</p>

2 事業名称：サステイナブル・ツーリズム推進のためのツアー情報集約サイトの構築			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>環境に対して低負荷な形がかつ自然観光資源に親しむことができる観光として、ダイビングやカヤック、トレッキング等のアクティビティがあげられる。地域内には、閑散期には環境調査や環境維持活動（ゴミ拾いや環境教育）などに積極的にかかわっている事業者も多い。</p> <p>こうした事業者の活動は、対外的に見せ、知ってもらい、利用・参加してもらうことで、維持していくことができ、また活動を行っていることがビジネス上の差別化にもつながる。伊豆半島においても個別の事業者による情報発信は行われているが、地域全体としての発信は不十分である。そこで、特にツアーを中心とした情報集約サイトを構築し、アクティビティに参加する訪問者の数を増やし、環境に対して低負荷な形であっても適切な収入が得られるという姿を示す。</p>	①なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>より魅力的なアクティビティの見せ方。自然体験アクティビティは機材などが必要なことから敷居が高いものと見られる場合がある。そのため、新規顧客を獲得することが難しいという意見が事業者から寄せられているその結果、適切な形で自然に親しむための間口が狭いように見えてみるとみられる。また、繁忙期と閑散期で参加者数が大きく変わってしまうため、通年での雇用が難しいなどの現状がある。こうしたことは担い手の減少にもつながる。</p> <p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p>	
	②どの地域資源を活用するか		<p>自然観光資源を活用した観光の地位向上・ブランド力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆半島ジオパークのジオサイト ・伊豆半島エコツーリズム推進全体構想（案）の「自然観光資源」「その他の観光資源」
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）		<p>ツアー情報集約サイトの構築・運用</p>
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）		<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆半島ジオパーク推進協議会 ・アクティビティ事業者
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか		<p>地域外を主なターゲットとした訪問者の増加 環境負荷の低い観光が認知され、収益が増えることで、そうした観光に参加する事業者・訪問者が増加する。</p>

3 事業名称：事業効果を評価するための調査手法の開発			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>アクティビティに参加した訪問者の数や、育成したガイドの数などの短期的指標は計量しやすい一方、それが本当に長期的な指標の向上やサステイナブル・ツーリズムの普及に役立っているのか判断することは難しい。また、環境影響に対する指標は社会情勢や新規技術の開発、研究の進展により変化するためであるため、新しい知見に基づいた順応的管理が必要と考えている。</p> <p>15市町という広がりの中における環境影響や経済的な面に対する事業の効果をできるだけ定量的に把握するための調査手法を開発したい。評価のために大きな労力を事業者等に強いることは難しい場合も多く、webアンケートやIoT機器の導入など、比較的簡易的かつ低予算で実施できる方法で事業の効果をはかることができる手法が必要。</p>	①なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>地域内の力で継続的に実施できるモニタリング・評価手法が不足している。</p> <p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p>	
	②どの地域資源を活用するか		<p>事業内容の妥当性検証と進捗確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆半島ジオパークのジオサイト ・伊豆半島エコツーリズム推進全体構想（案）の「自然観光資源」「その他の観光資源」
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）		<p>事業内容の妥当性検証と進捗確認</p>
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）		<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆半島ジオパーク推進協議会 ・自治体 ・観光事業者
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか		<p>環境や経済に対する事業効果を地域内で簡易的に評価できる。結果として順応的管理が実現できる。</p>